



～恩師がくれた贈り物～いつもユーモアと笑顔で



毎年冬になるとコロナ禍の2020年に亡くなった二人の温かい恩師を思い出します。日本に死生学を広めた上智大学の教授であられたアルフォンソ・デーケン神父とお茶の水メディカル・カフェを立ち上げたOCC副理事長であられた榊原寛牧師のお二人の先生です。デーケン先生は大学の卒業論文のために初めて読んだ著書「死の準備教育」で出会いました。「良く死ぬことはよく生きること」と教えてくれ、死に向かう人に最後まで良い時を過ごしてもらえるかわりができる看護師になりたいと人生の目標を与えてくださいました。ずっと人生の師と心に思ってきましたが、30年近くを経て2014年11月にデーケン先生の最後のイギリスホスピスツアーに同行させていただくことができました。デーケン先生はどんな時もユーモアを忘れずに、そこにいる人を楽しませることを常に考えておられました。デーケン先生のサインはいつも名前の横にピースマークの絵が添えられ、見るたびにっこりしてしまいます。

榊原先生は2011年12月のお茶の水メディカルカフェの立ち上げの会議で初めてお会いしました。非常に闊達でリーダーにふさわしい、榊野先生の志を具現化する意欲に満ちた方でした。準備からカフェの間も会場全体に目配りし、楽しいダジャレがお得意で、素晴らしい司会で90人近い参加者をおもてなしされていました。難病が発覚してからも車いすに座られていても、エレベーター前で来る方を笑顔と力強い握手でお迎えされ、どの瞬間も真剣に皆さんと向き合われていました。

2020年新型コロナウイルス感染症の蔓延で、カフェも休止、人と会うことが制限されました。その中で2020年9月と12月に二人の恩師の訃報に触れました。現実感がなく、また会えるのではないかという気持ちと、恩師と仰ぎ自分の人生を支えてきた先生方なので、目標を失った気がして、自分の人生も終りに近いという、喪失感がありました。それでもなぜか悲しい気持ちを引きずらなかつたのは、いつもお二人が笑顔でユーモアにあふれていたのが、偉い先生方としての功績よりも、ふとそのほんわかと温かな笑顔を思い出せるからではないかと思っています。



2021年12月に、榊原先生の後任の大嶋先生を新しい代表として再始動しました。今はこじんまりとしたお茶の水メディカルカフェとして生まれ変わりましたが、毎回初めての方が4~5人おいでくださいます。初めていらした方は、始めは緊張の面持ちですが、帰るときにはまるで旧知の仲のように皆さん笑い合っ、笑顔で「さようなら、またお会いしましょう」とお別れされています。カフェでの時間が笑顔とともに思い出される、これからもそんな時間が流れていくように、スタッフ一同でお迎えさせていただきたいと思ひます。



お茶の水がん哲学外来・メディカル・カフェ in OCC スタッフ 山崎智子